

2008年12月19日

「ヒューマンドキュメンタリー いのちの記憶 ～小林多喜二 二十九年の人生～」 平成20年度文化庁芸術祭で 「芸術祭大賞」を受賞！



北海道放送（HBC）が制作・放送したテレビ番組「ヒューマンドキュメンタリー いのちの記憶～小林多喜二 二十九年の人生～」(80分番組)が、平成20年度(第63回)文化庁芸術祭テレビ部門において、最高賞にあたる「芸術祭大賞」を受賞しました。

この番組は、小林多喜二の人間としての面にスポットを当て、激しく右傾化していく時代と誠実に対峙し、その時代と激突して志なかばで死んだ人間としての多喜二や、恋に悩み、家族や社会的な弱者に対する暖かく優しい目を持ち続けた多喜二をリベラルな視点から描いています。わずか二十九年で切斷された多喜二の無念の人生が、長い歳月を超えて、今、鋭く突きつけてくる問いとは何なのかを、北の風土の特性と共に描きながら見つめた作品です。

5月に放送以来、視聴者の皆さんから多くの反響があり、要望に応え異例ながら8月、11月と2度にわたり再放送した同番組。ワーキングプアが社会問題となる中、多喜二の代表作「蟹工船」が若い世代を中心に人気を呼び、作家・小林多喜二再評価の機運が高まっている中で放送されたことも、大きな反響を呼んだものと思われます。

HBCの芸術祭大賞の受賞は、1961(昭和36)年のテレビドラマ「オロロン島」、1983(昭和58)年のテレビドキュメンタリー「地底の葬列」に続いて3回目です。HBCの芸術祭受賞は、テレビ・ラジオ部門が芸術祭から独立し「芸術作品賞」(大賞・優秀賞などの区別なし)として表彰した時代(1985年～1995年)を含めると19回を数えます。

今回の受賞を記念して、HBCテレビでは急遽12月31日(水)午前9時55分より再放送することにいたしました。是非ご覧ください。

なお、本受賞作品はすでにDVD化され全国発売されています。

タイトル： ヒューマンドキュメンタリー いのちの記憶
～小林多喜二 二十九年の人生～
出演： 河東けい(女優)
安藤千鶴子(元北海道放送アナウンサー)
三浦光世(三浦綾子記念文学館館長)

ノーマ・フィールド（シカゴ大学教授）

倉田稔（小樽商科大学名誉教授） 浜林正夫（一橋大学名誉教授）

井本三夫（元茨城大学教授） 佐高信 ほか

構成・演出： 守分寿男（映像プロデューサー・演出家、元北海道放送常務）

演出・プロデューサー：松田耕二（北海道放送）

再放送日時： 2008年12月31日（水） 午前9：55～11：30

制作者の声

「小林多喜二という、ある意味では壮絶な人生を生きた青年を、どのように捉えたらいいのか。考えたことは、彼に貼りつけられた多くのレッテル（革命家、共産党の闘士、殉教者など）を取り除き、日記や手紙に表れている優しく純朴で、一途な青年の息づかいを浮き彫りにしていきたい、と思った。更に、彼の人生を単なる過去のものとして捉えず、その二十九年が、今になにを語りかけるか、そこを描きたい。死者が今に語りかける構成、を考えてみた。併せて、デジタルの横長の枠（フレーム）と、黒の深い美しさを最大限に活かしたいとその可能性を探った。それは、この新しいメディアへの私なりの挑戦であった。」

（「いのちの記憶」の演出にあたって 守分寿男）

「大賞をいただき大変光栄に思っています。北海道地域のみでの放送だったにもかかわらずこのような名誉ある賞をいただき会社、スタッフとも大変喜んでます。制作する環境が厳しい中、この受賞は作る者たちにとって大きな励みになります。又このような賞をいただいたことを機会により多くの方にこの番組を見ていただきたいと思います。」

（制作担当 北海道放送 松田耕二）

本件に関するお問い合わせ

北海道放送株式会社

社長室広報部 小竹信一・橋本能成

TEL 011-232-5821

FAX 011-232-3120

〒060-8501 札幌市中央区北1条西5丁目